（7） 2022年（令和4年）2月19日（土曜日） 山形新聞 （第三種郵便物認可） 第49046号 （全面広告）

米沢市・学園都市推進協議会「地域と大学との懇談会」

学生たちの〝ホームタウン〟へ

人口10万人未満の都市に山形大学工学部と山形県立米沢栄養大学・山形県立女子短期大学という三つの大学がある“学園都市”米沢市。大学と地域との交流促進を目指す「学園都市推進協議会」はこのほど、学生や市民との懇談会を開催。3組の学生が活動事例を発表したほか、学生と地域が今後さらに交流を深めるためのアイデアなどを語り合いました。

パネリスト
- ○山形大学工学部長　中島健介さん
- ○米沢栄養大学・米沢女子短期大学 学長　阿部宏慈さん
- ○小林亮太さん
- ○吉澤明澄さん
- ○二宮綾音さん・大竹希美さん

●コーディネーター
- ○学園都市推進協議会 会長　加藤英樹さん

加藤英樹さん

阿部宏慈さん

中島健介さん

挑戦する学生 行動力が心強い

加藤　3組の学生の発表を聞いて、感想を教えてください。

中島　コロナ禍でサークル活動などが制限を受け、3大学の重要なイベントである吾妻祭も2年にわたり開催ができませんでした。アクセルリンク米沢も、所属する学生が179人から15人に減ってしまったとのこと。早く何とかしなければと感じています。ただこの状況下での3者の発表にはとても心強いものがあり、学生たちを支えてくれる地域の方がたくさんいることも再確認しました。

阿部　アクセルリンクの小林さんが「人とのつながりが大切」とおっしゃったが、コロナ禍では人と距離を取ることを求められ、人間の一番大切なところが制限されています。その中で、どう人とつながれるか、いろんな試みをされているのが感動的でした。人から頂いた知識を理解して経験に結び付け、さらに他の学生さんに伝えています。地域に向かって何ができるか、考えて行動している学生さんがいる素晴らしさを改めて感じました。

加藤　続いて学生さんにお聞きします。どのように情報を発信すれば、若者世代に伝わるでしょう。

学生への情報発信 SNSを活用

小林　人数集めは重要な課題。大学生に知ってもらうためSNSを活用しており、中でもインスタグラムが本人とつながる上で必要なツールになっています。また学生の取り組みを、学生の前で発表する機会があればいいと思います。

吉澤　私もSNSは重要だと思います。米沢学生カフェプロジェクトでもインスタグラムをメインに発信しています。画像が目に止まりやすいのだと思います。また米沢女子短大は学生への連絡ツールとしてLINEが使われていますが、そこにイベント情報なども挙げてもらえればより学生に情報が届くと思います。

二宮　1年間ユーチューブ活動をしてきて、実際に友達や後輩がイベントに興味を持ってくれるなど、地域活動に参加を促す効果を感じました。参加した人が友達を連れてくる流れができると良いと思います。

大竹　学生に伝えたい情報は、学生が必ず触れるツールを使うことが大事。SNSの投稿内容も、面白い動画などにすれば学生を呼び込めるのではないでしょうか。ほかにも学校の生徒会などとつながって発信してもらえば、学生に“自分事”として捉えてもらえると思います。

中島　学生たちはSNSを当たり前に使いこなしている一方、若い人を支えたいと思っている世代はテレビやラジオなどに慣れ親しんでおり、コミュニケーションの軸が違うのかなと思っています。SNSとラジオ番組の違いなどは感じていますか？

吉澤　ラジオは不特定多数の人に届くメディアだと思っています。その点を聞いていて、若者が取り組む活動についてもラジオでもっと紹介したら、さらに人が集まるのでは、と思いました。

阿部　ラジオ番組の情報は大学のホームページにも掲載しています。また学校のLINEでの情報発信という提案を頂いたが、確かにイベント情報なども一緒にお知らせすれば、学生がより学校からの連絡を見てくれるかもしれませんね。

加藤　コロナ禍で地方での就職を考える学生も増えているかと思います。学生に米沢の企業をより知ってもらうのはどういう策があるでしょう。

「やってみた動画」入り口にいかが

吉澤　コロナ禍でインターンシップがオンラインで行われることが増えました。とはいえ実際に働く現場や人の声を見聞きしてみたく、米沢の会社を見学するツアーなどがあればよいと思います。

二宮　私たちがお手伝いできるとしたら、実際に企業を訪ねてどんな人が働いているか、どんな仕事をしているかをきっかけになると思います。

大竹　その企業が作っている物を使ったり食べたりする「やってみた動画」もアリかなと思います。CM大賞のような企画もよいのでは。

中島　先ほどホームタウンという提案がありましたが、まさしくその通りだと思います。工学部の学生としておよそ3千人が米沢におり、毎年約600人が米沢に来て600人が世に羽ばたいていきます。その中で米沢をホームタウンと認識した学生がいれば、米沢の財産になるでしょう。ぜひ米沢の方には今後とも、学生を温かい目で見守っていただきたい。そしてホームタウンと感じられる環境づくりにお力添えを頂きたい。もちろん大学も努力します。また、地元の高校生にも、山形大学工学部にチャレンジしてほしいと願っています。

阿部　地元就職については、米沢栄養大学では一度県外に就職して経験を積んでから、米沢に戻ってくる方もいると聞いています。高齢化が進み、食事や栄養の重要性が増すこれからの社会で必要とされる人材を育てていくので、ぜひ受け入れていただきたいです。米沢女子短大の学生も地元に残りたいという希望はあると思うので、マッチングが鍵となると思っています。

加藤　米沢をホームタウンと思ってもらえるよう、協議会としても取り組んでいきたいです。特に学生が一人の市民として快適に生活でき、仲間もつくれるような情報発信の在り方は検討していきたいと考えています。今後ともご協力よろしくお願いします。

【学園都市推進協議会】
山形大学工学部と山形県立米沢栄養大学・山形県立女子短期大学の発展や地域と大学との連携・交流促進などを目的とし、米沢市や米沢商工会議所をはじめとした官民の諸団体によって1994年に設立。活気あふれる学園都市を目指しさまざまな活動に取り組んでいます。

コロナ禍にも負けずにサークル活動を頑張ってきたことで得られたもの!!

活動事例発表

大切なのは人とのつながり

アクセルリンク米沢 代表　小林亮太さん（山形大学工学部4年）

アクセルリンク米沢は、山形大と米沢女子短大、米沢栄養大学の3大学合同のサークルで、米沢市と連携し、地域イベントの運営などさまざまな活動を行ってきました。コロナ禍においては米沢興譲館高校の生徒と連携しユーチューブで地域イベントの魅力を発信したり、学生が主体的に開催してきた「棒杭市」を、道の駅を会場とする「新そばまつり」とコラボして開催するなどしてきました。こうした経験から学んだのは、人と人とのつながりの大切さです。そしてこのつながりを、他の学生にも広げていきたいと思いました。

自分で行動し、つくりだす

エフエムNCV　フルカレ米沢DJ　吉澤明澄さん（米沢女子短期大学2年）

去年4月からエフエムNCVの番組でラジオパーソナリティーを務め、学生のリアルな日常や学生の活動を紹介しています。ほかにも地域活動として、学生が置賜の食文化の魅力を広める「okirakuキッチン」、地元農家の協力を得て自分たちで焼き菓子などを作って販売する「米沢学生カフェプロジェクト」などにも関わってきました。こうした活動を通じて、学生を全力で応援してくれる大人がたくさんいることを知りました。また自分から行動して、何かをつくりだすことが大切だと感じています。

挑戦・人脈・行動力!

学校公認ユーチューバー「おたみや」　二宮綾音さん・大竹希美さん（米沢東高校3年）

課題探究活動の一環でユーチューブチャンネルを開設し、地域情報を面白く発信しています。コロナ禍でもできること、そして若者に受け入れてもらえる手法としてSNSにたどり着きました。米沢東高生へのアンケートでは99%がユーチューブを見ており、私たちの動画で地域への関心が高まったという回答も得られました。この活動を通じ得られたものは「挑戦・人脈・行動力」です。卒業後も動画投稿を続け、米沢を世界中の人が知っている街にすることが私たちの野望です。ぜひチャンネル登録よろしくお願いします!